

帝キイ 現代映畫

原作並脚色者 東楓園主人
監督者 松本英一

撮影者 鷺田誠

酒屋の主人つんぼの久作
その伴 久
箕部の若旦那恭造

あんまの貞吉
郵便屋
許嫁の娘お菊
真吉の左房

高島 豊登
深山 八重子
歌川 八重子
河合 静子
建部 俊郎

解説—松本英一氏の「難破船」に次ぐ作品で
勸題に因んだ新春映畫である。

略筋—按原真吉の娘お菊。酒屋久作の伴久の
許嫁として酒屋へ預けられてゐたが三年前都會
へ出たさきで何の音沙汰もなく父親同志の間に
は絶へず久、お菊の問題で喧嘩が醸されてゐた。

お菊に横戀する箕部の若旦那恭造は貞吉を
説き落したがお菊は彼の問題にせず恭造はチャ
ンスを狙つてゐた。たま／＼久は故郷に錦を飾
つたが我家に待つは父のみで戀しいお菊の姿は
見えない。久の手紙によつて某令嬢との結婚を
信じてお菊を里へかへして仕舞つたからだつた。

恭造はうまく押し詰つた暮の廿一日さ云ふに
お菊と結婚式を挙げたがそれと知つた久は箕部
家へ乗込んで花嫁を奪ひ競争をふるつて恭造を
懲らした。天罪觀面満風の恭造は寒さにお
菊。その歡喜を壽ぐ様に元旦の朝日はさし昇つ
たのであつた。



寫真—海邊の巖—帝キイ松本英一作
右より瀬良章太郎と歌川八重子。